

## 日本人の英文リーディングの20の問題点とは！

### 1. 語彙面

1. 語彙量が根本的に不足しているために文脈をつかめない。
2. 英和辞典で覚えた単語の意味につられてピンとこない。
3. 多義語の英単語の意味の広がりを知らないためにピンとこない。
4. 基本動詞、句動詞に弱いのでネイティブの子供が読める読み物がエンジョイできない。
5. 専門用語（分野別語彙）の意味がわからないので話に入れない。
6. イディオムや格言などの知識が乏しくてエンジョイできない。

### 2. 文法面

1. 前置詞の文脈的意味がつかめないので読解が困難となる。
2. 冠詞の使い方や名詞の可算・不可算で意味が大きく変わることを知らないために読み違える。
3. 英語の構文の知識が欠けているため読解できない。

### 3. 知識・教養・人生経験

1. 世界情勢に関する興味と知識が乏しく話の内容がピンとこない。
2. さまざま学問分野に関する知識（一般教養）が欠けているため話の内容がピンとこない。
3. 人生経験が乏しく話の内容がピンとこない。
4. 英語のレトリックに慣れていないために話しについていけない。
5. 英語のネイティブスピーカーの発想に慣れていないため話の内容がピンとこない。

### 4. 思考力・分析力・論理性

1. 物事を論理的に分析し判断する力が欠けているので話の流れがつかめ

ない。

2. 行間を読む力に欠けるため High-context (文脈依存度の高い) 文章が読めない。
3. 抽象概念的思考が苦手なために思想・哲学的な読み物が理解困難である。
4. パラグラフリーディングができないため大意がつかめず、話のポイントや全体像がつかめず、速読もできない。

## 5. 精神面・心構え

1. 集中力に欠けるために内容を記憶できず文脈に入りにくい。
2. 心が狭いために自分と反対の意見を読むのに抵抗がある。

1の「語彙面」に関しては、一般語彙、専門用語、基本動詞のような多義語、イディオムに分かれ、それぞれ別々にシステマティックにボキャビルしていかなくてはなりません。一般語彙の場合、注意しなくてはならないのは、「英和辞典」や「単語集」によるボキャビルの弊害です。特に悪いのは、英和辞典の代表的な意味だけ読んでわかった気になり、例文やフレーズや他の用法をほとんど読まないことです。このアプローチでは、**英単語の意味の広がり**(semantic field)がつかめず、**語感**(feeling of the language)が養われないので、英英辞書で意味をつかみ、例文も必ず読んで「語感」を養うようにしましょう。その他、リーディング力UPのための多義語や分野別専門用語のトレーニングも本書で行います。

リーディング力UPのための「文法の知識」に関しては、特に前置詞の文脈的意味がつかめないので読解が困難となったり、冠詞の使い方や名詞の可算・不可算で意味が大きく変わることを知らないために読み違えたり、英語の「構文」の知識に欠けているため読解できなかつたりしますが、英語の中級者以上ではさほど重要ではなく、本書では最後の構文把握トレーニングにフォーカスします。

次に「知識・教養・人生経験」ですが、知識は大きく分けて、書物、学校教育、メディアなどから得られる **book learning**、**“academic knowledge”** と、**人生経験から得られる “experiential knowledge”** があって、リーディング

グ力の高い“**wisdom** (=1. good judgment and the ability to make wise decisions 2. knowledge gained over a long period of time through learning and experience)”を持った人間になるには両方が必要です。

まず前者は、刻々と変わっていくカレントな世界情勢に関する知識と様々な学問分野に関する知識（一般教養）、つまり百科事典的知識に分かれます。これが欠けるといくら英単語やイディオムの知識を増やしても、話の内容がピンとこなかったり、読むのが非常に遅かったりするので非常に重要です。そこでこういった**教養 (cultural literacy)** を高めるためには、資格テスト対策勉強を知識・教養を増やすための手段として活用し、英字誌や洋書（社会評論的なもの）や百科辞典などを興味を持って読むことが大切です。

後者の人生経験は、アカデミックな内容のものや専門的なものを読むときや、単に資格検定試験にパスするだけならばあまり重要でないかもしれませんが、人間関係的なものや人生哲学的なものや文学作品を読むときには重要になってきます。同じ文学作品を読んでも 15 歳のときに読むのと 20 歳のときに読むのとでは人生経験が異なるために読み方が変わってきます。“**experience**”とは 1. knowledge and skill that you gain from doing a job or activity, or the process of gaining this 2. knowledge that you gain about life and the world by being in different situations and meeting different people, or the process of gaining this となっていますが、英語のリーディング力を UP し、より深く読むためには、いろいろな文化の人と交流して視野、世界観を広げ、人生・世の中についてより深く洞察する「異文化体験」が重要です。しかし、人間の人生には限りがあってそれほどたくさんの異文化体験ができないので、洋画や洋書（小説）などで**疑似体験 (vicarious experience)** を通じて、人生・世の中について深く考え「英悟」する姿勢も必要となってきます。それによって英語のネイティブスピーカーの発想も知ることができ、視野が拡大 (**broaden one's cultural horizons**) します。

最後に英語のレトリックに関してですが、これも非常に重要で、タイムのような英語の雑誌には比喩、ジョーク、皮肉（風刺）、洒落と様々な英語のレトリックが用いられているので、そういった技巧を研究して慣れておくことが、リーディング力 UP に不可欠です。

次に「思考力・分析力・論理性」に関してですが、英文リーディングの苦手な人は、物事を論理的に分析し判断する力が欠けていたり、行間を読む力に欠けるため **High-context** (文脈依存度の高い) 文章が読めなかったり、抽象概念的思考が苦手なために思想・哲学的な読み物が理解困難であったり、また、パラグラフリーディングができないため大意がつかめず、話のポイントや全体像がつかめない人は多いようです。これらは大学入試の英語や国語の勉強を通じてかなり養われるものですが、それを経験してこなかった人はすでにハンディを背負っています。これは英会話のような体育会系の反復練習と **people skill** (対人関係処理能力) を必要とするものと対極をなすもので、いわゆるトップスクール合格のための受験勉強などを通じて鍛えられていく「**知的体力 (intellectual energy)**」と呼ばれるものです。これが弱いと英字新聞の第1面のような事実の記述 (**factual description**) の記事は読めても、作者の意見を書いた評論文などが読めなくなってしまいます。しかし、そんなハンディにめげずに、読解問題練習や専門学校でのスキルトレーニングを通じてそれを克服しようとする「**知的たくましさ (mental energy)**」がほしいものです。

最後に「精神面・心構え」に関してですが、そもそも学校や検定試験での英文リーディングというのは、自分が興味がないものでも長くて頭が痛くなるようなものでも読むわけですから、当然ながら「集中力」は必要となってきます。そうでなければリーディングしている時に寝てしまったり、すぐに他の事を考えてしまって内容を記憶できないために文脈に入りにくくなってしまいます。また、心が狭いために自分と反対の意見を読むのに抵抗がある人は、小説は読めても、評論文は読めないということが起こってきます。私はよく大学入試に備えて英語の勉強をしている高校生に対して、「英文リーディング力とは、自分と異なる意見に対して耳を傾けることのできる心の広さである」と言って、彼らが興味のない評論文でも興味を持って読むように駆り立ててきました。それは、単に入試で点を取るだけではなく、視野の広い (**open-minded [willing to consider and accept other people's ideas and opinions etc.]**), **have a broad perspective** [=a sensible way of thinking about, judging, and comparing situations, so that you do not imagine that something is more serious than it really is]), 色々な意見に耳を貸すことのできる人間・

人格形成という教育・学問の目的の1つを重視しなかったためです。ですからエンターテインメントのための小説だけでなく、社会評論や人生論なども多読するように心がけましょう。

さて以上をまとめて、英文リーディングの達人はどんなタイプであり、またどんな学習法で勉強しているのかを分析してみると次のようになります。